

二〇二二年度

早稲田大学大学院文学研究科

入学試験問題

【修士課程】

専門科目

中国語中国文学 コース

※解答は別紙(縦・横書)

「問一」～「問三」の回答順は自由でよいが、必ず問の番号を記してから答えること」

問一 次の十五項目の中から十項目を選び、ごく簡潔に説明せよ。

(時代の分かるものは必ず時代を記すこと)

ア 温李	イ 丁声樹	ウ 聞一多	エ 藝文類聚	オ 醒世姻縁伝
カ 戲文	キ 公安派	ク 徐庾体	ケ 「半元音」	コ 「非谓形容词」
サ 「文協」	シ 蒲松齡	ス 遊仙窟	セ 「红高粱」	ソ 中間言語連続体

問二 次の「ア」「イ」のうち、いずれか一つの問題を選んで解答せよ。

「ア」次の文章を読んで、全文を日本語に訳しなさい。

開元中、房瑄之宰盧氏也。邢眞和璞自太山來、房瑄虚心禮敬、因與攜手閒步、不覺行數十里。至夏谷村、遇一廢佛堂、松竹森映。和璞坐松、以杖叩地、令侍者掘深數尺、得一餅。餅中皆是婁師得與永公書。和璞笑謂曰、「省此乎」。房遂灑然、方記其為僧時。永公即房之前身也。和璞謂房曰、「君歿之時、必因食魚鱠。既歿之後、當以梓木為棺。然不得歿于君之私第、不處公館、不處玄壇佛寺、不處親友之家」。其後、譴于閩州、寄居州之紫極宮。卧疾數日、使君忽具鱠、邀房于郡齋。房亦欣然命駕。食竟而歸、暴卒。州主命攢積于宮中、棺得梓木為之。

(唐・鄭處誨『明皇雜錄』卷上より)

(注) 房瑄・和璞・婁師得・永公：人名。 盧氏：地名。 邢眞：邢州の眞人(道教の得道者)。

使君：州や郡の長官。

積：棺材。

宮中：紫極宮(道觀)の中。

「イ」次の文章を読んで、傍線部①②③を日本語に訳せ。

①俗語云：「酒逢知己千鍾少，話不投機半句多。」可見飲酒也要知己。若遇著不知己的，就是半杯也飲不下去，說話也怕不投機。若遇著投機，隨你說千說萬，都是耳躲順聽，心上喜歡，還只恐那個人三言兩語說完，就掃興了。

大凡有意思的高人，彼此相遇，說理談玄，一問一答，娓娓不倦。假使對著沒意思的，就如滿頭澆粟，一句也不入耳。倒是那四方怪事，日用常情，後生小子聞所未聞，最是投機的了。

昨日新搭的豆棚雖有些根苗枝葉長將起來，那豆藤還未延得滿，棚上尚有許多空處，日色曬將下來，就如說故事的，說得要緊中間尚未說完，剩了許多空隙，終不爽快。如今不要把話說得煩了。②再說那些後生，自昨日聽得許多妒話在肚裡，到家燈下紛紛的又向家人父子重說一遍。有的道是說評話造出來的，未肯真信；也有信道古來有這樣狠妒的婦人，也有半信半疑的，尚要處處問人，各自窮究。弄得幾個後生心窩潭裡，夢寐之中，顛顛倒倒，只等天亮，就要往豆棚下，聽說古話。③那日色正中，人頭上還未走動，直待日色蹉西，有在市場上做生意回來的，有在田地上做工閑空的，漸漸走到豆棚下，各佔一個空處坐下。不多時，老者也笑嘻嘻的走來，說道：「眾位哥哥卻早在此。想是昨日約下今朝，又要說甚麼古話了。」

(注) 鍾：杯子。

(『豆棚閑話』第二則)

問三 次の文章を読んで、以下の問いに答えよ。

- (1) 「」で囲まれたA・Bの部分を日本語に訳せ。
(2) 波線部①と②の現代中国語音をピンインで記せ。（声調符号も含む。横書きすること）

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

須一瓜《雨把烟打湿了》（《淡绿色的月亮》春风文艺出版社、2004年）より

受験番号	
氏名	

この欄以外に受験番号氏名を書かないこと。

ここから記入すること

中国語中国文学コース 専門

総点

--

(読み順)

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——

(次頁へ続く)

